

第 2 回策定委員会の主な意見

1)

10年後の子どもたちの姿を考え、それに対して何ができるかが重要。
10年といっても現在進行形であり、現状とかけ離れたものではなく、現状がベースとなるし、いいものは変更する必要はない。
杉並らしさを考えると、小中学校全校に学校支援本部が設置されていること、CSも今後拡充していくことが挙げられる。その点では、地域とのつながりを生かした10年になるのではないか。

2)

人としてどうあるかということが重要。
ビジョンの中でどこまでを対象とするか範囲を決めないと議論ができないのではないか。

3)

「切れ目ない支援」を考えてみても、母子手帳や虐待への対応を教育委員会で行うのか、という問題もある

4)

現行のビジョンを見ても、「未来を拓く人を育てます」は、子どもを対象とし、「自分たちで～」は子ども以上(大人)を対象にしており、高校・大学が抜けている(策定委員も高校・大学のメンバーはいない)。全体を見据えて議論していくべきではないか。

5)

子育て支援が就労支援になりつつある。ビジョンでは、教育支援としてやっていくべき。

6)

現在、「インクルーシブ教育」が一つのエポックとなっているが、これは大人からやっていくべき。どういうコミュニティを作るか、という議論がないと、子どもたちや教育につながっていかない。
「学力」よりは、「キャリア教育」のほうがすべての人を対象としているので、ビジョンにふさわしいのではないか。

7)

親育てが必要ではないか。既存の保護者会ではなく、親と先生が本音で語り合う場があればよいと思う。

8)

地域のとらえ方をどうするか。今までは、年配の方が中心のイメージがあるが、これからは、いかに現役世代の参加を得るかが重要である。また、地域の中で
の連携、例えば、地域区民センターとの連携をどのようにしていくか、という
のも課題である。

9)

目指す人間像・児童像を明確にすることが大切ではないか。これまで杉並は、
数々の効果的な施策を実施してきた。その施策を点から線に、さらには面にし
ていくためには、目指す人間像・児童像を明確にすることが大切ではないか。

10)

新しいビジョンを作るといっても、これまでのいい施策は変える必要はない。

11)

やはり、小中の9年間が重要である。キャリア教育をさらに高めて、小中が連
携して生き方教育を推進していくべきではないか。

12)

企業で求めているものと学校で教えているものが一致していない。これは、先
生が民間の社会人経験がないからで、先生もキャリア教育を受けるべきだ、と
いう意見を友人から聞き、一理あると感じた。目指す人間像・子ども像を明確
にすることにより、こうしたことが解消することの一助となるのではないか。

13)

今までの世の中は、いい高校・大学・企業に入るのが目標だった。しかし、こ
れからは、そこで何をすることが重要である。そういった点で、キャリア教育は
重要である。

ビジョンで何を提示するか、一つは教育から学びへの転換ではないか。何を教
えるから何を学ぶかへの転換。今回のビジョンはその機会になるのではないか。

14)

公立学校がしっかりしない限り、日本の将来はない。それくらい重要なこと
である。

連携や一貫は、言うは易く行うは難しである。

15)

次回の議論は、本日議論した内容を委員長・職務代理者・事務局で調整し、整
理をした上で提示し、さらなる議論を展開していくかたちとする。